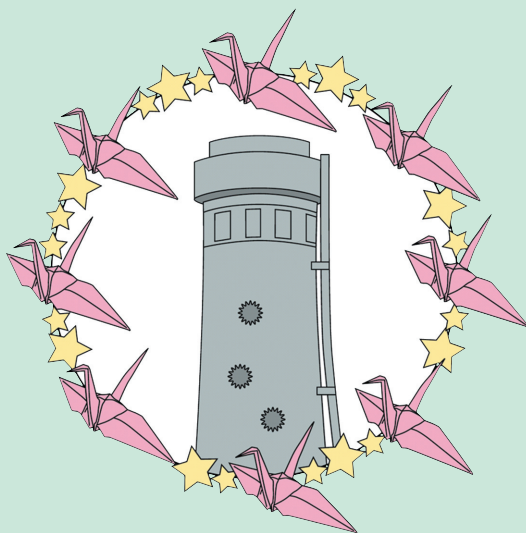


“平和へのビジョン”長岡京



長岡京市

目 次

「“平和へのビジョン”長岡京」の改訂に際して	1
これまでの歩み	3
平和の日	5
平和祈念碑	6
平和を考える市民フォーラム	7
いのち輝く長岡京市平和都市宣言	9
平和のシンボルマーク	10
平和を祈る折り鶴	11
漢字一字の平和メッセージ	12
こども平和宣言	13
小学生の学習発表	14
世界と日本の現状	15
平和の構築に向けた長岡京市の役割	17
長岡京市の施策	19

「“平和へのビジョン”長岡京」の改訂に際して



戦争で傷つき失われる命が二度とないように、この街の戦災の歴史を子どもたちへ伝えたい。このような思いから制定された本市の「平和の日」は、平成21年度で20周年を迎えました。

この20年を振り返りますと、世界ではイラク戦争、旧ユーゴスラビア内戦、チェチェン紛争など武力衝突が絶えず、その結果、多くの尊い人命が奪われるだけでなく、貴重な文化や環境も失われました。その一方で、国連安全保障理事会の核不拡散・核軍縮決議やオバマ米大統領のノーベル平和賞受賞など、国際政治に核兵器のない世界の実現を目指す潮流が生じつつあることは明らかなことです。

「戦争の世紀」と言われた20世紀において、戦争や軍事力が人々に幸福をもたらしたことは一度もありません。私たちは、苦勞の末に平和を築いてこられた世代から未来を担う子どもたちへ「平和」を確かな財産として引き継ぐために、歴史に学び、文化や信条の違いを乗り越えて、平和を希求する強い意志を持たなくてはなりません。

物質的に豊かな社会に生まれた若い世代にとって、過去の「戦争」や「食糧難」は、実感の伴わないはるか昔、または遠い国の出来事のように感じるかもしれません。本市においても、先の大戦の悲惨な出来事や、戦中、戦後を生き抜いてこられた方々のご苦勞をうかがい知ることは年々



難しくなっています。だからこそ、本市の「平和の日」をきっかけに、市民の皆様と行政が一体となって平和について考え、取り組むことは、20周年を迎えたこれからも、益々大切な使命になると言えるでしょう。

また、わが国には唯一の被爆国として、核兵器の廃絶を世界の人々へ強く訴えていく責任があります。本市といたしましては、世界各地で行われる核実験に対して抗議を続けるとともに、平成21年7月には核兵器廃絶を目指す平和市長会議へ加盟いたしました。

恒久平和の実現を目指す気持ちは人類共通です。子どもたちが「いのち」の尊さを知り、安全な環境のもとで健やかに成長できますよう、私も全力で努めてまいりますので、市民の皆様のおなご協力をお願い申し上げます。

平成21年12月

長岡京市長 小田 豊



これまでの歩み

長岡京市では、将来にわたる平和と繁栄を願って、平成元年に平和への基本理念と施策方針について意見を求める機関として「長岡京市平和ビジョン懇談会」を設置し、同懇談会の意見を基に「“平和へのビジョン”長岡京」を策定しました。

同時に同懇談会の提言により、平和を希求する原点として、乙訓唯一の空襲である神足空襲のあった7月19日を、長岡京市の「平和の日」と決めました。

また、戦争の悲惨さを後世に伝えていくために、神足空襲の弾痕が残る煙突を復元した「平和祈念碑」を建立し、平成2年以降、毎年7月に「平和を考える市民フォーラム」を開催し、献花を行っています。

「平和を考える市民フォーラム'92」では「平和への誓い」を発表し、平成8年には「戦没者追悼之碑」を建立しました。

平成12年10月27日に長岡京市平和ビジョン懇談会から平和都市宣言の実現を盛り込んだ「平和施策推進に関する意見書」が提出されたことを受け、同年12月に、いのち、環境そして平和への理念を盛り込んだ21世紀へのメッセージとして、市議会全会一致の賛成で「いのち輝く長岡京市平和都市宣言」を行いました。

平成14年には平和を考える市民フォーラム式典において、小学生が平和への思いを託した「こども平和宣言」を行いました。

平成20年には市民から公募した平和祈念碑のイラストを元に「平和のシンボルマーク」を制定しました。



また、平成 21 年 7 月 1 日には「平和市長会議」へ加盟しました。これは、昭和 57 年の国連軍縮特別総会において、当時の広島市長が「核兵器廃絶に向けての都市連携推進計画」を提唱し、広島、長崎両市長から世界各国の市長に賛同を求めたことが始まりで、その計画に賛同する世界各国の都市で構成された団体です。

年表

平成元年(1989年)	長岡京市平和ビジョン懇談会の設置
	“平和へのビジョン”長岡京の策定
	平和の日の制定
	平和祈念碑の建立
平成 2 年(1890年)	平和を考える市民フォーラムの開催 (以後、毎年 7 月に開催)
平成 8 年(1996年)	戦没者追悼之碑の建立
平成 12 年(2000年)	いのち輝く長岡京市平和都市宣言
平成 14 年(2002年)	こども平和宣言
平成 20 年(2008年)	平和のシンボルマークの制定
平成 21 年(2009年)	平和の日制定 20 周年
	平和市長会議へ加盟



平和の日

長岡京市では昭和 20 年 7 月 19 日に米軍艦載機の銃撃を受け、市内において一人の尊い命が犠牲となったほか、数名の負傷者が出ました。

二度とこの様な悲劇を繰り返さないことを誓い、平和を希求する原点として、7 月 19 日を本市の「平和の日」と定めています。



平和の日の取り組み



平和祈念碑

太平洋戦争末期の昭和 20 年 7 月 19 日午前 10 時半頃、新神足村(現長岡京市神足)は天王山方面から飛来した米軍艦載機の銃撃を受け、一名の犠牲者と数名の負傷者が出ました。

同地区にあった日本輸送機株式会社の煙突は、その当時の機銃掃射の痕跡を残して、40 有余年苛酷な戦禍の記憶を市民に伝えつづけてきましたが、老朽化により倒壊のおそれが生じたため、昭和 62 年秋に基部のみを残して撤去されました。

本市の「平和祈念碑」は、大戦の傷跡が残る煙突を 5 分の 1 の大きさに復元し、戦争の悲惨さを次の世代へと伝える証人として、JR長岡京駅東口広場に建立したものです。

苛酷な戦禍の記憶は、平和を希求する原点です。戦争による大きな犠牲の上に築かれた平和の尊さを、市民すべてがもう一度見直し、後世に守り伝えていきたいものです。



平和祈念碑

平和を考える市民フォーラム

毎年「平和の日」に近い日に、平和を考える市民フォーラムを開催しています。これは「平和の日」をきっかけとして、「平和」や「いのち」の尊さについて、改めて考えてもらうことを目的とするものです。

平和祈念碑への献花をはじめとして、女性の会の協力による戦時食「すいとん」の試食コーナー、老人クラブ連合会の協力による石うす引きやはったい粉の試食などの昔のくらし体験コーナー、市立小中学校の協力による舞台発表、その他にも講演や映画上映などを行っています。



戦時食「すいとん」の試食コーナー



昔のくらし体験コーナー



市立中学校 吹奏楽部の演奏





いのち輝く長岡京市平和都市宣言

こころ豊かで、ゆとりのある平和な暮らしは、私たちの願いです。

人類はいま、冷戦の時代から平和と共生の時代へと踏み出したこの歩みを、さらに確かなものとするために、私たちは薄れつつある戦争の記憶を常に新たにし、その悲惨と災禍の歴史から、平和の尊さをくみとっていかねばなりません。

「歴史を教訓に平和への決意を新たにする決議」を踏まえ、生きとし生けるものが調和し、共生しあって、かけがえのない地球の環境が守られ、人権が尊重され、いのち輝いてこそわが国は真の恒久平和を築くことができます。

新たな21世紀を迎えるにあたり、私たち長岡京市民は、それぞれの立場から貢献することを誓い、ここに「いのち輝く平和都市」を宣言します。

2000年12月 長岡京市



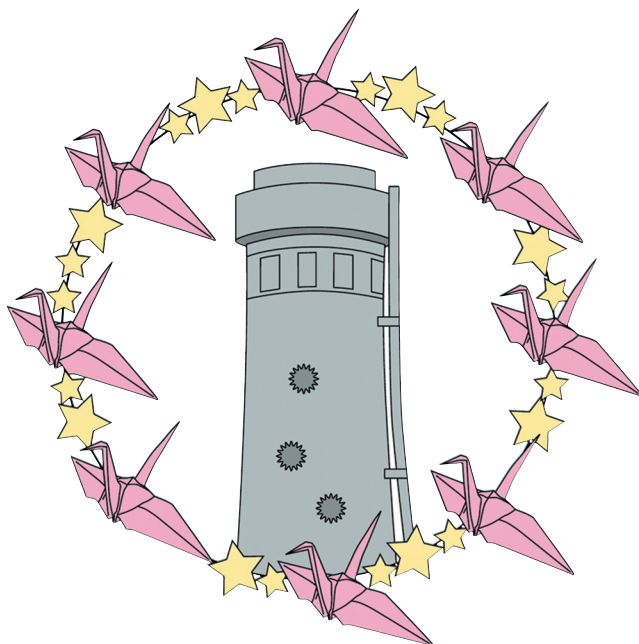
平和都市宣言碑



平和のシンボルマーク

一人ひとりが長岡京市の歴史を知り、少し立ち止まって平和を考えるきっかけとなるよう、平成 20 年度に平和祈念碑のイラストを募集したところ、82 名から 94 点の応募がありました。

応募の中から、長岡京市平和ビジョン懇談会で選考を行い、採用作品を決定しました。採用作品は長岡京市の「平和のシンボルマーク」として、市の封筒などの印刷物やホームページに広く活用しています。



平和のシンボルマーク



■ 平和を祈る折り鶴

毎年6月から7月にかけて、平和を考える市民フォーラムの献花式で平和祈念碑に献納する折り鶴を募集しています。市民、各種団体、保育園児などから、想いの込められたたくさんの折り鶴が寄せられます。

平和祈念碑に献納した後の折り鶴は全て広島市へ送り、平和記念公園にある「原爆の子の像」に献納しています。



平和を祈る折り鶴の献納



漢字一字の平和メッセージ

長岡京市の「平和の日」制定 20 周年を記念して、「漢字一字の平和メッセージ」を募集しました。応募総数は 512 通、133 種類の漢字が寄せられました。小中学生からの応募もたくさんあり、応募作品の全てを平和を考える市民フォーラムの会場で展示しました。

応募の多かった漢字と理由は以下の通りです。

	漢字	応募数	理由
1	楽	38	みんな楽しく暮らしていたら平和だと思う 今、毎日楽しく生活できるのも平和だから
2	幸	37	みんなが幸せで一人一人を大切にすることが必要 空襲など辛いことのない今はすごく幸せ
3	笑	36	みんなで笑ったら気持ちがいいから 争いや差別がないと笑顔がいっぱいで平和な日々を送れる
4	夢	22	戦争でなくした夢を新たにもってほしい 世界が平和であることは全人類の夢だと思う
5	愛	20	愛にあふれているとき、世界は平和だと思う 愛があれば、みんなわかりあえて世界は平和になる
6	和	19	人類に和の心があれば争いは起きないと思うから 世界の平和、人類の和睦の願いを込めて
7	心	17	平和は一人一人が心を開くことだと思う 平和であれば心は穏やかだが、戦争が起これば心が乱れる
8	生	16	戦争中は、いつ死ぬかわからない 平和を感じるのには生きていてこそ
9	仲	15	もっと国々が仲良くすれば争いがなくなり平和になる 仲良しなら争わないし、仲間なら助け合えるから
	明	15	当たり前になり日が暮れてまた明日が来る、この当たり前が平和 平和だと、みんな気持ちが自然と明るくなる
10	命	13	かけがえのない命を大切にすることから平和はうまれる 平和でなかったら、たくさんの命が奪われてしまうから





こども平和宣言

私たちは、日本が関った戦争と、今世界中で起こっている戦争について知り、戦争の怖さを知りました。

ベトナム戦争中にまかれた、かれ葉ざいのせいで、戦争後に双子の兄弟の体がくっついて生まれるという、ひがいがあったことも知りました。

大人たちの争いは、一しゅんにして多くの命をうばい、今も世界中の子ども達をまきこんでいます。

私たちの命は、お母さんが生んでくれ、お父さんたちがしっかりと育ててくれた大切な命です。

その大切な命を むだにするような戦争は、やめてほしいと願っています。

平和な世界にするために、私たち一人一人が、世界の国々には、日本と違う生活や文化があることをしっかり学び、理解することが大切です。

そして、世界が平和になるように取り組んでいこうとする気持ちを大切にしながら、いつも相手の気持ちを考えて、行動することを心がけていきます。

戦争のない世界になることを、心から願い、世界中の子供たちに笑顔がおとずれることを祈り、ここに、こども平和宣言をいたします。

平成十四年七月十四日

長岡京市立長岡第七小学校 六年 窪田 あずさ
市橋 玲子
比果 知美
十河 進仁
野村 拓磨



小学生の学習発表

平和を考える市民フォーラムでは、平成 17 年度から市立小学校の協力を得て、平和に関する学習発表を行っています。

小学生は、事前学習として戦争中や戦後の暮らし、当時の長岡京市の様子について、地域の方からお話を聞きます。

食べるものが充分でない飢えの苦しみ、毎日、命の危険にさらされる不安、大切な家族や友達を理不尽に失う悲しみ、そして、戦争が終わってからも癒えることのない心と身体一。

お話をしっかり受け止めた子どもたちは、辛い体験を話してくださった方への感謝の気持ち、そして自分たちが平和な世界を築いていく決意を詩や歌に込めて発表しています。



市立小学校の学習発表

世界と日本の現状

二十世紀の世界史上、人類は二度に渡って世界大戦を引き起こし、最も大きな犠牲を出した第二次世界大戦が終結してから早くも60年以上が経過しました。

この間、世界は米ソを中心に大きく二分され、更に冷戦と呼ばれる米ソ2 大国を中心とした体制が築かれました。この国際緊張は、ヨーロッパに比べて政治的に不安定な状況にあったアジアの国々に影響を及ぼし、朝鮮戦争やベトナム戦争、イラン・イラク戦争を引き起こしました。その後、冷戦の象徴であったベルリンの壁が崩壊し、東西ドイツが統一され、自由・平和・民主主義を求めるうねりは東欧諸国へと波及しました。そして、ついに1991年、ソビエト社会主義共和国連邦が70年近くに及ぶ国家の歴史に幕を閉じました。

ソビエト社会主義共和国連邦の崩壊により、東西の冷戦構造は終焉しましたが、それまでは東西対立の中でバランスを保っていた地域間紛争や、内戦型紛争がアフリカに端を発して世界各地に広がり、その結果、今もなお、多くの一般市民の命が危険にさらされています。90年代には、米ソ2 大国体制を前提とした安全保障体制に揺らぎが生じ、核兵器不拡散条約(NPT)締約国の不遵守問題などが明らかになり、条約を礎とする核軍縮・不拡散体制は内側から脅かされていました。

しかし、2009年に米大統領がプラハ演説で核廃絶への決意を示したことで国際的な機運が高まりをみせ、国際連合安全保障理事会において「核兵器のない世界」の実現を目指す核不拡散・核軍縮決議を全会一致



で採択するなど、新たな潮流が生まれつつあります。

日本においては、昭和 20 年(1945 年)8 月 6 日の広島に引き続き同 9 日には長崎に原子爆弾が投下され、世界で唯一の被爆国となりました。また、第二次世界大戦においてわが国は多大な被害を受けましたが、同時にアジア・太平洋地域の国々に対し大きな災禍をもたらした事実を忘れてはなりません。それゆえ、唯一の被爆国として、核軍縮・不拡散に向けて行動するとともに、世界平和の構築と繁栄に貢献しなければならないのです。

幸いにも、この 60 年以上の間、戦渦に巻き込まれることのなかった日本は、朝鮮戦争を機に飛躍的な発展を遂げ、世界を牽引する経済大国となりました。

経済活動の相互依存関係の拡大によって、世界の国々はますます緊密に結ばれています。このような状況下、一国のみの努力で平和を維持し、創造することは極めて困難です。そして何よりも、自国の平和のみをもって、平和な世界だと満足してはいけません。それゆえ私たちは、体制、民族、宗教、歴史、文化等の相違を超えた交流促進により、相互理解と友好を深め、次代を担う子孫の世代に、平和で住みよい社会を残すための努力を続けなければならないのです。



平和の構築に向けた長岡京市の役割

地方自治体には地域社会の秩序を維持し、住民の安全・健康及び福祉を保持する責務があります。そして、自治体はその責務を果たすためには、日本はもちろん世界の国々が平和であることが必要です。しかし、戦後 60 年以上が経ち、戦争を体験した人々が少なくなる中で、戦争によって引き起こされた凄惨な記憶の一つ一つが日本人の中から薄れつつあります。

再び同じ過ちを繰り返さないために、人類が自らの手で引き起こし、経験した災禍の歴史は決して風化させてはならないものです。既に、多くの日本人にとって戦争は過去の事実過ぎず、痛みを伴う記憶ではなくなってきた現在、次代を担う青少年に、戦争が引き起こす悲劇と巻きこまれた人々の悲しみを伝えることは私たちの大切な使命です。

また、日本と世界の国々が友好的な関係を保っていくためには、自治体が率先して異なる文化や民族的背景を持つ人々との間の相互理解を深めることが極めて有効であると考えられます。それは、例えば経済や文化、スポーツなどの分野で国際間の友好的なネットワークを作る際には、自治体や民間の方が国家よりも迅速且つ柔軟に対応できることから明らかです。明治以降、欧米モデルへのキャッチアップを目指したわが国は、脱亜入欧路線をまっしぐらに進み、アジアらしい文化や伝統、生活習慣から離脱する一方で、同じアジア民族でありながら、近隣諸国の人々を軽視するという不幸な道を歩んだ時期もありました。内外に住む外国人との交流を深めることは、多文化・多民族の存在を受け入れ、内なる国際化を



促進する一歩となります。

長岡京市では、昭和 58 年(1983 年)に中華人民共和国浙江省寧波市と友好都市盟約を締結し、経済交流として技術研修・実習生の受け入れ、市内企業の視察、懇談会などを行うとともに、文化・スポーツ交流として、少年友好使節団の派遣等の活動を展開してきました。さらに、昭和 59 年(1984 年)には、アメリカ合衆国マサチューセッツ州アーリントンとも姉妹都市盟約を締結し、市民団体の相互派遣などの交流を続けています。

長岡京市は、これからの社会を担っていく青少年に平和の尊さと人間の尊厳に対する理解を深めてもらうこと及び異文化との真の交流を目指すことを通じて、平和を希求する世論を醸成していくために、最大限の努力をしています。



長岡京市は、市民誰もが、様々な個性をもつ多くの人と交流を深め、お互いを尊重し、高めあいながら、ふれあうことのできるまちづくりを目指します。

平和施策は、第3次総合計画における実施計画事業「平和施策の推進」を中心として実施しています。戦争体験の風化が進み、平和に対する市民意識が薄れてきている社会において、改めて平和の意味を考え、問い直す取り組みを進めます。主な取り組みは以下のとおりです。

[平和意識の啓発について]

- 平和イベント(平和を考える市民フォーラム等)の実施
- 核兵器廃絶への取り組み
- 図書館における戦争と平和に関する図書の展示と貸出
- 戦争、平和に関する資料の収集

[被災者対策について]

- 原爆被災者の会への支援
- 戦没者遺族会への支援

[友好交流による平和への貢献について]

- 友好・姉妹都市との交流促進
- 民間交流の促進
- 市内に居住する外国人と市民との相互理解の促進



平成 2 年 2 月発行

平成 4 年 7 月改訂

平成 15 年 7 月改訂

平成 21 年 12 月改訂



長岡京市役所
企画部政策推進課

〒617-8501 京都府長岡京市開田1丁目1番1号
TEL 075-955-9502 FAX 075-951-5410
ホームページ <http://www.city.nagaokakyo.kyoto.jp/>